

# 男子種目の見どころ



**萩野公介**

世界にマルチスイマーとしての名を轟かせた萩野



**入江陵介**

復活した日本のエース入江



**Chad LE CLOS**

200mバタフライ短水路世界  
新記録保持者チャド・レクロ

## パワーのある海外選手にどこまで迫れるか 勝負だけでなく記録にも期待がかかる

オーストラリア ゴールドコーストでのパンパシフィック水泳選手権で2冠、韓国 仁川で行われたアジア大会では4冠を果たしてMVPにも選ばれ、世界にその名を轟かせた萩野公介選手(東洋大)。得意の個人メドレーだけでなく、100m、200m自由形にもエントリー。特に注目したいのは、100m自由形だ。今夏の日本学生選手権において、400mリレーの第1泳者で48秒75というタイムで泳いでいるだけに、短水路でどこまで記録を伸ばせるのかに期待がかかる。この種目の第一人者である塩浦慎理選手(イトマン東進)と、リレーでは大きな力を発揮する中村克選手(早稲田大)に加え、シドニー五輪で金メダルを獲得し、ロンドン五輪でも50mで5位に入賞しているアンソニー・アービン選手(アメリカ)を加えたスプリント勝負は必見。

その萩野選手のライバルである瀬戸大也選手(JSS毛呂山)は、ワールドカップのアジアラウンドに参戦中。今季世界ランキング1位をマークした200mバタフライでは、最大のライバルであるチャド・レクロ選手(南アフリカ)も出場予定。世界ランキング1、2位の戦いから目が離せない。香港大会、モスクワ大会でメダルを獲得している坂井聖人選手(早稲田大)、パンパシフィック水泳選手権とアジア大会代表の平井健太選手(セントラルスポーツ)の若手2人が、瀬戸選手、レクロ選手にどこまで迫れるのかにも注目したい。

バタフライでは好調な瀬戸選手だが、得意の個人メドレーでは、結果が残せていない今季。「練習の成果を出せなかったし、萩野選手から自分が遅れをとっていることがよくわかった。悔しいですね」。アジア大会の400m個人メドレーのレース後、そう話していた。元々ワールドカップで多種目に出場し、ハードなスケジュールのなかで結果を残し続けて勢いに乗るタイプの選手だけに、今大会では個人メドレーでも奮起を期待したい。

今年2月の日本選手権(25m)で50m、100m、200m平泳ぎのすべてで短水路日本記録を樹立した小関也朱篤選手(ミキハウス)は、アジア大会終了直後から香港大会とモスクワ大会に出場。香港大会で100mと200mで銅メダルを、モスクワ大会では100mで銅メダルを獲得し、100%のコンディションではないものの地力を見せている。ロンドン五輪の200mで優勝し、昨年のバルセロナ世界水泳でも金メダルを獲得したダニエル・ジュルタ選手(ハンガリー)との直接対決は、今大会が初めて。世界王者にどのようなレースを挑むのか、楽しみだ。その2人に割って入るのは、アジア大会で銀メダルを獲得した小日向一輝選手(セントラルスポーツ)や、第2回ユースオリンピックの金メダリスト若手の渡辺一平選手(佐伯鶴城高)。接戦になる可能性が高く、特に200m平泳ぎは見逃せないレースとなるだろう。

2013年シーズンに苦しんだ分、今シーズンは好調な入江陵介選手(イトマン東進)。アジア大会終了時点で、100m、200mともに今季世界ランキング1位となり、長年課題としてきたスタートやターン後の水中動作にも改善の兆しが見える。対する金子雅紀選手(YURAS)と白井裕樹選手(ミズノ)は、水中動作が得意で短水路に絶対的な自信を持っている。短水路シーズンには、あまり大会に出場しない入江選手だが、今大会では100m、200mの背泳ぎと個人メドレーに出場。背泳ぎでは金子、白井両選手との戦いに注目。個人メドレーでは6月のジャパンオープン2014(50m)の200mで優勝しているだけに、どんな記録を出すのか楽しみである。

泳ぎの技術では世界トップクラスだが、スタート、ターンといった周辺技術、水中動作技術では、パワーのある海外選手たちに遅れをとっているのも事実。そのなかで今大会では、日本人選手たちがどのような戦い方を見せてくれるのかにも注目したいポイントだ。



# 女子種目の見どころ

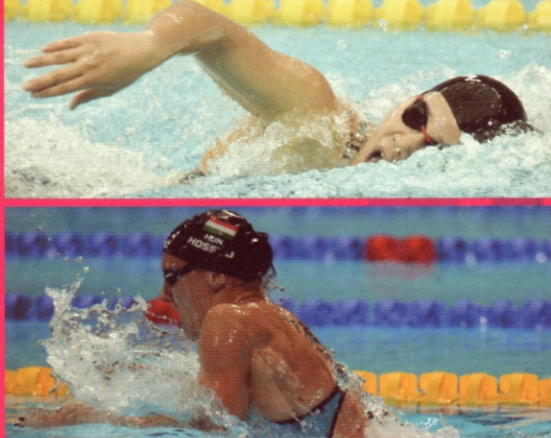
## 渡部香生子

今シーズン絶好調の渡部



## 内田美希

13年破られなかった日本新を破った内田



## Katinka HOSSZU

世界のマルチスイマー、カティンカ・ホッサー

## 力をつけた勢いのある若手とベテラン勢の戦いに注目

ロンドン五輪以降、若手の成長が望まれてきた女子。周囲の期待に応えるように、今シーズンは中学生の成長が著しい。8月の全国中学校水泳競技大会では、日本トップレベルと肩を並べるほどの中学新記録が5人で6つ誕生。そのうちの2人は、自由形短距離を得意としている池江璃花子選手（ルネサンス亀戸）と持田早智選手（ルネサンス幕張）。9月の日本学生選手権の50m自由形で、13年越しとなる日本記録を樹立した内田美希選手（東洋大）の強力なライバルとなり得る存在だ。内田選手、池江選手、持田選手の3人が挑むのは、アテネ五輪から長く世界の第一線で活躍し続けている、オランダのスプリンター、インヘ・デッカー選手。さらには全種目で世界トップレベルの実力を持つカティンカ・ホッサー選手（ハンガリー）が加わると、面白いレースになることは間違いない。

長谷川涼香選手（東京ドーム）は、200mバタフライで中学記録を出した選手。この種目の第一人者である星奈津美選手（ミズノ）は、今回は100mのみの出場だが、高校生でパンパシフィック水泳選手権とアジア大会に出場して世界を経験した中野未夢選手（アクシー東）との対決、さらにホッサー選手やミレイア・ベルモンテガルシア選手（スペイン）も加えたレースは見逃せない。

また、個人メドレーで中学記録を樹立した牧野紘子選手（東京ドーム）は、長谷川選手のチームメイト。若さ溢れるレースに期待したいところ。特に、100m個人メドレーでは今シーズン絶好調の渡部香生子選手（JSS立石）、日本代表の寺村美穂選手（セントラルスポーツ）に加えて混戦模様。昨年のバルセロナ世界水泳の200m、400m個人メドレーを制したホッサー選手、ベルモンテガルシア選手といった、世界の1位、2位を相手に、牧野選手、渡部選手、寺村選手がどんなレースを見せるのかにも注目したい。

ベテラン選手として、長く平泳ぎを牽引している金藤理絵選手

（Jaked）は、アジア大会の200m平泳ぎで銀メダルを獲得し、その後のワールドカップ香港大会、モスクワ大会でもメダルを獲得して好調を維持。今シーズンは精彩を欠き、パンパシフィック水泳選手権のレース後に涙を流す姿も見受けられた鈴木聡美選手（ミキハウス）だが、アジア大会の50mで金メダルを獲得したあとに、少し気持ちが吹っ切れた様子。「ようやく今の自分と向き合ってレースをすることができた」（鈴木選手）。昨年この大会から第一線に復帰を果たした、ロンドン五輪代表の松島美菜選手（セントラルスポーツ）を加えたベテラン選手が揃った100mのレースは必見だ。

今年2月の日本選手権（25m）では50m、100m、200mの3冠を達成しているが、夏の長水路シーズンで結果が出ずに悩んでいるのは、背泳ぎの赤瀬紗也香選手（日本体育大）。アジア大会の200m背泳ぎでは金メダルを獲得したが、記録に納得がいらず、悔しそうな表情を浮かべながら、こう話した。

「寺川綾さんが引退されて、得意の200mだけじゃなくて、100mでもタイムを期待されているが、結果が出なくて悔しい」

世界でメダルを獲得し続けた寺川氏の後継者として注目される重圧はあるが、本人は自分ももっと頑張って記録を出せばいい、とも話している。昨年のワールドカップでは、参戦した中東シリーズで連日表彰台に乗る活躍を見せた赤瀬選手だけに、飛躍の切っ掛けをこの大会でつかめるかに注目しよう。

ベテラン対若手の構図ができあがりつつある女子だが、特に若手は恐れずに前半から積極的に攻めるレースをしてもらいたいところ。ホッサー選手やベルモンテガルシア選手といった世界のトップスイマーたちは、例外なく前半の速さを持っている。そのスピードを体感し、自分がどこまで挑戦できるかの試金石ともなり得る今大会で、さらに飛躍を果たす若手選手が出てくるかどうか期待したい。